

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第83回）議事概要

- 1 日 時 令和7年(2025年)1月24日(金) 午後2時00分から午後3時40分まで
- 2 場 所 横須賀市役所消防庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席委員 安部委員、笈委員、嘉山委員、佐藤委員、篠原委員、藤田委員、米村委員
- 4 事務局 環境部 山口部長
環境政策課 出雲課長、赤城主査、大野、山川
廃棄物対策課 中島課長
環境施設課 府馬課長
広域処理センター 山本所長
久里浜収集事務所 田辺所長
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

開会

- ・事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告

議事

- (1) 諮問「横須賀市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の見直しについて」

○佐藤委員長

それでは議事に入ります。先ず議題の（1）横須賀市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて、事務局より諮問について説明をお願いいたします。

○事務局

横須賀市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の見直しについて、副市長から諮問させていただきます。恐れ入りますが、委員長、副市長、委員長席の前までお進みいただきますようお願いいたします。

○副市長

（諮問書を読み上げ、委員長に渡した）

○佐藤委員長

只今、副市長から諮問をいただきました。現在のごみ処理基本計画を策定してから早3年が経過しました。新年度を迎えるにあたり、みなさまと活発に議論を進めてまいりたいと思

います。

○事務局

質疑に入ります前に、副市長から皆様へご挨拶を申し上げます。

○副市長

(挨拶)

○事務局

恐れ入りますが、副市長はこの後別の公務がございますので、ここで当審議会を中座させていただきます。

○佐藤委員長

それでは議事に入ります。「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の見直しの概要」について、事務局より説明をお願いいたします。

(2) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の見直しの概要について

○事務局

(資料1について説明)

○佐藤委員長

ありがとうございます。令和8年3月までご審議いただくことになりました。具体的な検討をして欲しいという意見等も含めてご意見やご質問はありますか。

安部委員いかがでしょうか。

○安部委員

見直しについての案ですが、出されているごみの分析結果も、資源ごみとして再利用できるようなものが多々見受けられます。その中でも剪定枝については、再利用することで大いに活用が期待でき、大きく削減ができると感じます。

食品ロスの有効活用やフードバンクについても、窓口として民生委員や社協の方々によって寄与されていくと思いますので、もっと横の連携を活用していくことで削減されていくと思います。

○佐藤委員長

はい、ありがとうございます。全般的なりサイクル、有効活用の促進を頑張って欲しい。ということと、食品ロス対策については、非常に大きく期待しているといった意見でした。

(寛委員が挙手しているのを見て) はい、寛委員。

○算委員

見直し案について、よく練られていると感じます。わからないところがいくつかありますので、お聞きします。

まず、7ページの食用油の資源化について、具体的な回収方法はどのようなのでしょうか。また、年間見込量約150tという数値が、ごみ排出量約11万tと比較すると少ないと感じますがいかがでしょうか。

次に8ページ、プラスチックごみ削減について、マイバッグやマイボトルの普及はかなり進んでいると思います。しかし、外人の方はレジ袋をもらおうとよく聞くのですが、米軍の方への啓発はどのようなのでしょうか。

最後に10ページの家庭系の剪定枝はどのように収集していくのでしょうか。

以上、教えていただけますでしょうか。

○佐藤委員長

はい、ありがとうございます。算委員から3点、ご質問がありましたが、事務局からいかがでしょうか。

○環境政策課長

事務局から説明、回答させていただきます。

まず食用油の資源化について、回収方法については、まず市の施設による拠点回収を試行的な回収場所として考えています。入れ物について、他都市は専用のボトルを配布するほか、ペットボトルに入れて回収場所で回収など、出しやすい方法を検討しています。

また、数量について、150tという数値は確かに少ないと感じますが、横須賀市より少し人口の多い藤沢市は過去の実績より220t程度、横須賀市より人口の少ない平塚市や茅ヶ崎市は100t前後程度となっているため、このような他都市の実績より今回150tとさせていただきます。

プラスチックの削減について、米軍への具体的な対策はありませんが、来年度、ごみ分別アプリをリニューアルする予定で、外国人の方も簡単に検索できるようになるため、アプリによって様々な施策をアピールしたいと考えており、そのひとつとしてマイバック、マイボトルを入れるなど参考にさせていただきます。

最後に、家庭系剪定枝について、近隣自治体は予約制で、自宅へ収集に行くか、集積所に排出して収集をしています。現在、どちらがよいかを検討しているため、決定しましたら報告させていただきます。

○佐藤委員長

ありがとうございます。市として現在考えていることを回答いただきました。また、具体的に数値目標や回収方法等を含めて、審議会でご意見をいただきながら市へご提案できればいいと思っています。いま回答いただいたことをベースに今後、ご審議いただきたいと思っています。

篠原委員から何かご意見等をいただけますか？

○篠原委員

家庭系剪定枝の資源化は非常にいい案だと思います。公園や街路樹の剪定枝の資源化については、既に行っていますでしょうか。また、腐葉土にするなど、どのように資源化されるのかについてもお聞かせください。

食品ロスについては、私共の組織でも力を入れています。フードバンクかながわと連携しており、横須賀市も協力していただいているが、今後もさらに促進してほしいと思っています。

計画策定時の令和2年度はコロナ禍でロックダウン状態であったため、その後、ごみ量など増えていくと考えていたが、減ってきているので、なぜ令和2年度が多かったのか理由があればお聞かせください。

○環境政策課長

お手元の資料 2-1 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理（案）の20ページをご覧ください。令和元年度から令和5年度までのごみ処理の実績を記載しています。委員より令和2年度が多かったのではというご意見ありましたが、令和元年度の方が多くなっておりまして、令和元年度は台風の影響もあり多くなっておりまして、令和2年度のコロナ禍との比較は難しい部分もありますが、例年、年々減っている傾向にあります。令和2年度の特徴としては、令和元年度に比較して資源ごみが増えており、コロナ禍で巣ごもりなど、家庭で過ごす時間が増えたことにより缶・びん・ペットボトルなどが増えています。また、令和2年度から事業系剪定枝の資源化を行っており、資源ごみが増えた要因となっています。全体としては減る方向にあります。

○佐藤委員長

引き続きまして剪定枝関係の質問2点はいかがででしょうか。

○環境政策課長

街路樹等の剪定枝につきましては、令和2年度より事業系剪定枝の資源化を行っています。造園業や公立学校などで出た樹木などについては、横須賀市積替保管施設で受入れ、堆肥化またはバイオマス発電において発電の燃料として使われています。

フードドライブについては、促進を広げていけるよう研究して考えていきたいと思っています。

○佐藤委員長

はい、ありがとうございます。令和5年を基準にするというのは、より厳しいスタートラインから新たな目標を設定しているという形で、市としては、険しい道を頑張っていこうとしながらも、実現の目途も持ちつつという心意気をご説明いただきました。

（委員が挙手しているのを見て）はい、米村委員いかがででしょうか。

○米村委員

内容につきましては、これから皆さんで審議しながら深めていくということでもいいのですが、再資源化したあとのものを、誰がどのように使っていくのかを考えていかないという厄介な問題が出てきます。一言で言うと、使う側はできるだけ品質のいいものを使いたい。廃棄物処理する側から言うと、できるだけ多くごみから再資源化に回したい。典型的なのがプラスチックです。

プラスチックは、プロピレンなのかそれとも塩ビなのか、ひと目みてわかる人は、ほとんどいません。分別しない限りは、あとの再利用は期待できず、サーマルリサイクルとして燃やして発電のエネルギーにしようと多くの自治体で行われています。プラスチックはマテリアルリサイクルとして物質で回収し、それぞれの特性に応じた再利用をすると環境省も見直しをしました。

もうひとつ厄介なのは、使う側は主に産業、捨てる側は自治体、市民となります。産業側は産業廃棄物に属することに関わってくるということになっています。

ご承知おきの方もおられるかと思いますが、EUでは、これから作る自動車のプラスチックの25%が再生プラスチックでなければならないという法律が定められました。今、日本の自動車メーカーはせいぜい6%程度くらいしかできていない。これからEUに輸出する、或いはEU内で製造しようとする車は、25%にどうやって増やすか。産業側にはこういった事情もあります。

産業廃棄物同士のやり方は色々ありますが、一般廃棄物のマテリアルリサイクルしたプラスチックはどのように扱っていくのか、考えていくと厄介なものがたくさん出てきます。

一例を申し上げましたけれども、そういう議論もこれから頭に置きながら進めていければというふうに思っています。

○佐藤委員長

ありがとうございました。プラスチックの問題は、プラスチックはみんな燃やして発電すればいいのではないかと、いまだに一生懸命説明している方もいらっしゃる。

清掃行政がリサイクルするために集めるというのはある意味理不尽なところで、行政の方がどれほど苦勞しているのか。一度、環境省が作った法律ですが、清掃行政の方の苦勞と国からの財政措置があまりない。リサイクルを推進するという理想はどんどん掲げたいが、あんまり無茶をしちゃいけない、というところをアクセル踏みながらブレーキも一緒に踏んでいるようなところがあります。横須賀市は頑張ってプラスチックのリサイクルをどんどんしていこうという考え方を披露していただきながら、新しい見直し計画の中に少しでもアイデアを入れられたのではないかと思います。こういったそもそも論に立ち返るような議論を委員長が率先してやっていいものなのかわかりませんが、本音も入れてご意見をいただければと思います。

嘉山委員はいかがでしょう。

○嘉山委員

様々なご意見をお伺いする中で、例えば今お話された中というのは、動脈産業と静脈産業

を一元化してやっていくような方向になると思うのですが、まず基本となる家庭というのは、安心して過ごさなければならない、それが目的だと思います。

リサイクルが大前提になると思うが、あまりリサイクルの方向に行くと、生活が窮屈になりかねない。先ほど委員長がおっしゃったようにアクセルを踏みながらブレーキを踏むというような形で、少し時間をかけて市民とコミュニケーションをとりながらやっていかないといけないのではないのでしょうか。

一番大事な部分は、再資源と言うけれども、実際我々が扱っているものは、きちんとした工程のもとで作っている。法的な関与は言い過ぎかもしれないが、規格内容が明記されていないと思うので、そこは議論の対象になると思います。

先ほど、自動車産業をおっしゃっていたが、日本も負けれないためそういう材料を使わなければならないと思います。そうしたときに、JIS 規格か何かを考えていかなければならない。我々が言う一般的なリサイクルを考えると、市民の方が出したものがどういった過程でリサイクルされ、どういった流れでどういうものが出来上がって、それに対してどのような保障があるのかという見える化が必要かと思います。

市全体で動いていくと家庭や事業者を含めるのであれば、PFI とかいわゆるプラットフォームデザインを構築して、行政が表立って指導していくことが必要ではないかと思います。

剪定枝については、非常にうまくいくと思います。食品ロスについては、ある県では PFI を導入して、民間と連携し取扱いしているところもあります。食品は微生物である程度処理できるものもあり、例えば環境省から予算措置してもらえるような形で、エコミルにそういった施設を建設してはいかがでしょうか。例えば、コンポストは家庭で使っているが、コンポストのトンネルを作って、その先に微生物を用意して、その微生物により量を少なくする。また、液体にして活用するくらい踏み込んでもいいのではないかと。そうすると、CO2 の問題などに転嫁できれば、市民の方にも理解をしてもらうことができ、協力してもらえるのではないのでしょうか。

廃油に関して、固形化して焼却するものもあれば、飛行機などの燃料にする方法もあります。先ほどおっしゃったペットボトルで回収し施設に持っていくというのは、自動車を使うと循環に悪影響と感じます。また、各家庭から出る量もそれほど多くないと思われます。意見が具体的になると細かくなってしまいますが、そういったことを整理整頓して、じっくり考えるのもいいのではないのでしょうか。

○佐藤委員長

ありがとうございました。ご意見とご希望と、これからこの審議会でもより具体的にしていきたいと思います。きましようといった決意表明のようなご意見であったと受け止めさせていただきます。

今のご意見に事務局からなにか短めにコメントできることはありますか。

○山口部長

いろいろご意見ありがとうございます。アイデアをいただいたと思っています。また、国の施策でないと動けないもの、一自治体でなく、最低でも県や国が動かないとできないものもあるが、市ができるものは取り組むべきだと思いますし、具体的な部分、現場の中でど

うしたらいいのかというところ、最後の方におっしゃっていた食用油の回収方法も工夫していかないといけないと思っています。回収に車を使うことによって発生するCO2とのバランスについても課題のひとつとして投げかけていただいたと思っています。我々も創意工夫し、先行している他都市や民間企業の中の取り組みなどを勉強するほか、委員の皆様からもアドバイスいただきながら前向きな取り組みができればと思っています。

○佐藤委員長

ありがとうございました。アイデアをいただきましたので、実りあるものにできればいいかなと思います。次の議事に移りたいと思います。

(3) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理について

○佐藤委員長

「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理」について、今までいろいろと宿題をいただいています、それに見合った資料が出てきたのではないかと期待しておりますので、事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料2-1、2-2について説明)

○佐藤委員長

ありがとうございます。進行管理の基本的な見方として、ごみ処理基本計画の大目標を実現する個別施策の取り組みも評価をして進行管理するということだと思います。少し複雑だったかなと思いますが、かなり手を抜けない方法で評価されるなと感じました。

ご質問やこういったところを頑張って欲しいなどご意見ある方いらっしゃいますか。

(筧委員が挙手しているのを見て) はい、筧委員。

○筧委員

まず、1つ目は、2ページ目の75%はどのように出てきたのでしょうか。

2つ目は、少し厳しいことを申し上げます、私は民間の会社に長くいたのですが、担当者はこの評価ABCによって賞与・昇給に関係するのか。実施しなかったら昇給しないなどあるのでしょうか。極論になってしまうが、そうすると担当者が必至になってこれを○にするために頑張るのではないかと思います。

○佐藤委員長

はい、事務局お願いします。

○環境政策課長

まず、75%を出した理由としましては、重点施策の取り組みいくつかありますが、大体

4つ以上あります。一つは良くなくても、他が良ければ概ね 75%以上になる。その積み上げでA評価になるといったことで提示させていただきました。

もうひとつの担当者の評価や昇給については、直接は関係していませんが、人事評価というのも見やすくなり、担当者も力を入れる一つの要因になるのではないかと推測しています。

○佐藤委員長

はい、寛委員よろしいですか。

○寛委員

山口部長は、担当者の評価についてどう思いますでしょうか。

市役所の昇給システムが頭がないのでわからないのですが、民間ですと、例えばA B C D Eといった指標があり、予定以上に実施できた場合にはA、更には S 評価という形でボーナスが 1.5 倍出るような仕組みだったため、頑張ろうという担当者がたくさんいました。一部実施したけれど何とかいろんな部署を動かして、高い給料をいただけるようにすると横須賀市がよくなるのではないのでしょうか。

○山口部長

まず、人事評価とは、ダイレクトにはつながっていないことは先ほど出雲課長から言った通りで、個人の成績の部分とチームの成績とかいろいろある。民間と公務員の違いという部分もある。例えば車のディーラーの営業とした時、車を何台販売したから評価されてボーナスに反映されますという話とは、評価の基準や立ち位置が違うと思う。

あくまでも計画の進行管理という視点では、11 年度に向けての取り組みの中で、成功したもの、失敗したものを見極め、成功したものは来年度も継続していこう、という今後に向けての一つの指標となるのではないかと思います。また、一部できなかったという評価になった取り組みについては、その満足度は低いのか、という観点が次に重要となってくると思います。市民にとって受け入れがたいものや、周知がまだまだ足りない場合については、創意工夫、改善ができる点を、自分なり、チームなりに解釈した中で、新しいやり方を取り入れるかどうか等を検討していく上での、ある意味マイルストーンのようなものであるため、単年度の評価には結びついていないのが現状です。

○佐藤委員長

ありがとうございました。あまり評価の方に視線を奪われなくて、項目を目標にあげたものを一つ一つの取り組みがどこまで手がつけられたか、というふうな中間点検をしながら、評価につなげていくということだと思います。

(米村委員が挙手しているのを見て) 米村委員どうぞ。

○米村委員

関連して発言したいと思います。今、寛委員がおっしゃられた評価を個人のいろいろな

成績と連動させるというのは、民間の一つの特徴だと思います。前に何回か申し上げたかと思いますが、目標を達成出来た、出来なかった、特に出来なかったものについては、原因を解明して、どういうふうに改善しますという考え方を明示してほしい。明示していただくと、市民も納得しやすくなると思います。

○佐藤委員長

はい、ありがとうございます。米村委員より、助け舟というよりこれが本来、一番大事なことかなという印象を受けました。どうしたら達成出来ないものを達成出来るようになるのか、あるいはそのうえで、協力をもっと仰がなくてはいけないところも見えてくると思います。市民が自主的に参加できるようなツールになっていけば、非常にいいなと思いますので、ぜひ、達成出来ていないところを評価基準に加えていただきたいなと思います。

はい、事務局どうぞ。

○山口部長

改めて笈委員、米村委員ありがとうございます。このABCという表現がいいのか悪いのかって言ったところもあるかと思います。◎なのか○なのか、△なのか×なのかといったストレートでよかったのかもしれないというところは反省点としてあります。予定通り実施したというところで甘んじるのではなく、実施したけれどもそれが成果として向上しているのかどうかというところがポイントの一つになるかと思います。また、なぜ実施しなかったのかというところは、法が改正されたことや何か大きな要因で実施できなかったということを、自分たちの反省材料や、この審議会でフィードバックさせていただき、皆様のご意見をいただいてアドバイスやご指摘をいただくことで次に繋げていく、そういう姿勢で臨みたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

○佐藤委員長

ありがとうございます。継続していくのが何より大事というところがあります。藤田委員いかがでしょうか。

○藤田委員

自分の分野ではないからわからないが、よくできていると思います。

ちょっと気になっているのは、基本計画の中に「啓発」は入らないのでしょうか。啓発活動はとても大事だと思っています。

○佐藤委員長

ありがとうございます。非常によくここまでまとまったという評価だと思います。

審議会でも基本的には、この進捗管理は改良を加えて進めていただければと思います。

安部委員いかがでしょうか。

○安部委員

ごみの問題は多岐に渡って大変ですが、以前、今の資源回収を行う前、粗大ごみなどを一定の場所に一か所に出していたが、その時に比べて、今はコンビニへ持っていくとポイントをもらえるようなシステムとかもあり、時間をかけてごみを出す人の考え方が大きく変わってきていると思います。

リサイクルできるものを町内会・自治会などを通して一人ひとりに教育、指導しながら実施していくことによって大きな減量になるのではないかと思います。

一部、ルールを守らない、または言葉が通じないのかルールを無視して出す方も中にはいますが、周りがフォローしながら、自分の町内会のごみは自分たちの中できれいに管理していこうというように市民が変わってきていると思います。

今のこの提案も難しいところもあると思うが、以前のように努力していけば、徐々に市民に協力を得られると思います。時間をかけてやっていけば、不可能も可能になっていくと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございます。非常に、事務局としては後押しされる意見だったと思います。

私の意見ですが、進行管理の中で、行政がやって評判のいい分別の改良点ですとか、市民の方の評判がいいもの、行政内部のよかったというものを進行管理に入れていただけると読みごたえもあると思うので、ご検討をお願いします。

それでは、一通りご意見も出たかと思しますので、計画の見直しと進行管理を含めて、全体で発言したいことがあればお願いしたいと思います。

(筧委員が挙手しているのを見て) 筧委員。

○筧委員

私は、プラスチックアクリル製品を取り扱う会社にいたことがあります。最近、プラスチックごみの影響によって苦しむ海の生物たちの映像をテレビで見ることもあり、プラスチックごみを削減しなくてはならないという意見は尤もだと思います。

一方で、企業ではいまだに POP 等の販売促進用品の素材として、アクリルやプラスチックを使用しているケースが多くあります。例えば、私がいた会社ではコンビニのレジの横にある募金箱を取り扱っていました。全体をプラスチック素材で作製するよりも、一部他の素材を使用して作製するほうが高くつくこともあり、プラスチックやアクリルを使って安く作製して欲しいという企業がたくさんありました。そういった企業の認識を変えていかなければ、プラスチックごみは減らないと思います。紙や木材等を使用する方法もありますが、単価が高くなってしまふことから代替素材の活用は進まないと思うので、横須賀市に限らず行政が民間企業に対して、事業活動におけるプラスチックの使用削減について啓発していくことが必要だと思います。

万博や国体等の大型イベントの際にも同様のことが言えますが、イベントモチーフのプラスチックキーホルダー等が作製されることが多く、要するにそれらを作ってほしいと求める企業が出てくるわけです。県や国に働き掛けるとともに、このような視点に対する取り組みも行っていかなければ、プラスチックごみは減らせないと思います。

○佐藤委員長

ありがとうございました。ゼロエミッションと言っても結局ゼロにはならない。最後はもう利用できない形となって燃やす或いは埋め立てなくてはならないというものは出てしまう。それをいかに小さくするのかというところが現在のリサイクルの目標だと思います。今、筧委員がおっしゃった利用先やリサイクル先を開発する視点や支援するというのも大きな啓発になると思いますので、なにかいいアイデアを、この審議会の委員の皆さんもどんどん知恵を絞っていただいて、行政の皆さんも頑張ってください。

基本的に全体として、進行管理の方法については、今日出たプラスαの改良点を考慮して、継続していただいているということですのでよろしいですかね。

(4) その他

○佐藤委員長

それでは、議題3、その他に入ります。事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料その他 などについて説明)

○佐藤委員長

はい、ありがとうございます。連絡事項のうち災害廃棄物処理計画の改定について、せっかく情報提供もいただきましたので、審議委員の方からご意見等いただければと思います。

(安部委員が挙手しているのを見て、) はい、安部委員。

○安部委員

災害廃棄物の件ですが、発生してその後の捨て場所というのは明確にはないですが、スペース的に大きな空き地などに廃棄するように聞いているが、そういう解釈で間違いはないでしょうか。

○環境政策課長

災害廃棄物の仮置場の件だと思いますが、現在、地域防災計画の見直しをしております、その中で公園やグラウンドなどの用途を整理しているところです。仮設住宅や自衛隊の参集場所など広い場所の取り合いになっているところもあり、災害廃棄物の置場の確保というのは、復旧時に必要となるため内部で調整しているところです。

○佐藤委員長

審議会に合わせていろいろ情報提供をいただけるということですね。災害廃棄物という

のは、すぐ捨てる場所がない、埋めるところもなく、燃やせないので一旦、仮置場というところに仮置きをして、分別など処理をして、埋めるもの、焼くものは極力減らして、廃棄物を処理するというやり方になると思いますので、また計画の進捗を期待していきたいと思います。ありがとうございました。

その他、特にご意見ありませんでしょうか。

○山口部長

委員の皆様から良い話だけでなく、厳しいご意見、海外とか国の政策に触れて、我々が入手していないような業界のお話もいただいて感謝しています。

内容的な部分、まだまだ不十分でやっていかなければならないこともあります。一步一步着実に、あくまで市民の皆様、企業の皆様のご協力をいただかないと進まないという部分もあります。また、先ほども言いましたが、取り組み自体を国がやらないと進まないもの、最低でも都道府県が企業と組んでやらないとうまくいかないものもあります。まずは、この計画の中では、横須賀市が単独で出来るところから手をかけて、将来的にそれが波及効果というところで、市民の皆様にご理解をいただいた中で、分別から始めて、再資源化、再利用などの意識づけを進めていければと思います。引き続きお知恵を拝借したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○佐藤委員長

ありがとうございました。最後に部長から決意表明をいただいたという感じでございます。それでは本日の横須賀市廃棄物減量等推進審議会を終わりにしたいと思います。本日はお疲れさまでございました。

以上